

平成 21 年度 第 1 回景観・デザイン委員会 親委員会 議事録

日時・場所

日時：平成 21 年 7 月 24 日（金）16 時～18 時

場所：土木学会

出席者

19 名（敬称略・順不同）

田村委員長、斎藤幹事長、佐々木新幹事長、小出委員、五道委員、重山委員、神田委員、屋代委員、江川委員、関委員、平野委員、吉川委員、丹羽幹事、福井幹事、沖田幹事、後藤幹事、新屋幹事、三宅幹事、宮下幹事（記録）

配布資料

議事・委員会構成メンバー表

別添資料 1 各小委員会活動報告

別添資料 2 景観政策に関する提言

別添資料 3 デザイン教育ワークショップ 2009 企画

別添資料 4 2008 年度収支報告

別添資料 5 論文集再編について

2009 年度運営方針

議事概要

- 1) 委員長挨拶（田村委員長）
- 2) 新・旧委員、委員兼幹事紹介
- 3) 2008 年度景観・デザイン委員会の活動概要（斎藤幹事長）
- 4) 各小委員会活動報告および質疑（各小委員会担当・別添資料 1・2・3）
- 5) 2008 年度収支関連（後藤幹事・別添資料 4）
- 6) 論文集再編について（平野委員・別添資料 5）
- 7) 2009 年度景観・デザイン委員会運営方針（佐々木新幹事長）
- 8) その他審議事項：デザイン賞 10 周年に向けて・議事に関する意見交換

議事

1) 委員長挨拶

- ・前期に引き続き田村氏を委員長として委員会を運営する。

2) 新・旧委員、委員兼幹事紹介

- ・出席者による自己紹介を行った。

3) 2008 年度景観・デザイン委員会の活動概要

- ・斉藤幹事長より、2008 年度の委員会活動について説明。

4) 各小委員会活動報告および質疑（各小委員会担当・別添資料 1・2・3）

【景観・デザイン研究発表会】（丹羽幹事）

- ・一般の参加費を昨年の 1.5 倍の 6,000 円とした。今年度も同様とする必要がある。
- ・今年度は九州産業大学で開催予定であり、第 1 回の小委員会を開催した。
- ・例年実施している金曜の特別企画については、予算不足から実施しない可能性もあったが、日本景観生態学会・九州産業大学・本委員会の三者共催によるシンポジウムを実施してはどうかという提案が出されており現在検討中。

（佐々木幹事長）共催と広告による協賛の兼ね合いなどに配慮する必要があるが、なるべく多面的でにぎやかになることが望ましいので、前向きに検討してほしい。

【景観・デザイン研究論文集】

- ・審議事項特になし。

【デザイン賞】（福井幹事）

- ・昨年度より応募総数が 7 件減少した。
- ・今回より奨励賞を設定。また星のや軽井沢を選考委員特別賞とした。
- ・受賞記念品のデザイン変更等により収支が改善され、はじめて黒字となる見込み。
- ・今年度は、夏～秋に応募作品を視察すること、また論文発表会などの他イベントと連携することを想定し、スケジュールを前倒ししている。

【景観政策に関する提言】（福井幹事・別添資料 2）

- ・4 月末に 393 の全景観行政団体に向けて提言を送付した。
- ・都市計画学会や造園学会との共同提言とはならなかったが、賛同の文書をつけることはできた。
- ・フォローアップはまだ実施していないが、篠原委員長宛に数件連絡があったようだ。
- ・受け取らなかった自治体もあった（宇和島市）
- ・全体として大きな反響ではないという印象。
- ・今年度は有志によるワーキングな形式からはじめ、途中から小委員会として立ち上げた。小委員会はメール審議により承認されている。途中から趣旨が中央官庁向けから自治体向けに変わったことなどもあり、実質的にも小委員会としてかなりの活動をしている。
- ・今年度も小委員会を継続する意向だが、昨年度と同様の形式の方が議論はしやすい可能性もある。
- ・昨年度は田村委員長がオブザーバーとして出席していた。学会名で提言することからも、活動内容が十分に親委員会に伝わるよう配慮すること。

【デザイン教育ワークショップ】(重山委員・別添資料3)

- ・大学の講義・演習をWEBで公開し、オンライン受講を可能にする試み。
- ・これまでに授業は5回実施。7月25日より一般向けに公開予定。
- ・今後、河川管理者(県)への説明をすることも考えている。WSへの協力可能性も探していきたい。
- ・オンライン化する作業などの人件費が主であるため、学会の予算による補助は想定していない。
- ・講師の謝礼金等、必要経費が生じた場合には委員会に申し出ることも可能。

5) 2008年度収支関連(後藤幹事・別添資料4)

- ・2009年度の委員会予算 / 756,000円。
- ・土木学会管理金が09年度より25%となる。
- ・研究発表会・論文集小委員会支出のうち、論文集審査委員の旅費が多額となっており、改善が必要。
- ・デザイン賞小委員会の収支は改善され、デザイン賞2008では約32万円プラスとなった。
- ・各委員会への研究活動費が減少傾向にあり、親委員会でも経費節減が必要。デザイン賞では交通費・宿泊費の実費精算などをルール化して支出を改善したこともあり、親委員会でも実施したい。また委員会終了後の懇親会への参加等、その後の行動にともなう宿泊費は自己負担としてほしい。
- ・親委員会からの余剰金を出さないようにすること。

6) 論文集再編について(平野委員・別添資料5)

- ・土木学会として国際ジャーナル化を目指す理念のもと、論文集再編の検討が行われている。
- ・各委員会の論文集は通常号 or 特集号に移行することになる。
- ・景観・デザイン委員会はもとより再査読制度を持ち、論文の質を担保するための努力をしており、通常号となることが望ましい。
- ・一方、「デザイン部門」を設けていることや「記録性」を査読の基準としていることなどの独自性をどこまで守れるかが課題となる。
- ・また、紙媒体の発行が無くなることへの懸念もあり、「保存用」としての印刷物の作成を要望していく必要がある。
- ・委員会としては、基本的には通常号としてEジャーナル化されることを了承するので、今後の詰めは、編集小委員会にゆだねたい。

7) 2009年度景観・デザイン委員会運営方針(佐々木新幹事長)

- ・資料に沿って、幹事長から今年度の方針について説明された。

8) その他審議事項：デザイン賞10周年に向けて・議事に関する意見交換

- ・デザイン賞10周年に向けたワーキングを立ち上げる。
- ・10周年企画は、歴代の主査に呼びかけ検討していきたい。
- ・国交省景観担当の溝口氏を委員に追加するよう依頼する。

<フリーディスカッション>

- ・(田村委員長)親委員会は単に承認の場ではなく、社会や市民とのつながりの場となることをやっていく必要がある。市民の活動(例えば鞆の浦など)に対して発言することなどの積み重ねで「市民の側に立った学会」というアピールになっていくのではないかと。
- ・(佐々木幹事長)予算との兼ね合いもあるが、今年度は親委員会の開催回数を増やしたい。
- ・(江川委員)土木は大地とのつながりそのものを扱う分野であり、そこに面白さがある。近代社会が決めてきた標準設計という考え方が今後も続くとは思われない。たとえば漁村集落のようなところでは全く通用しない。今ある基準では乗り越えられない問題を抱えた環境に対し、どう味方になれるか考

えていきたい。

- ・(三宅委員) 本学はライトの弟子である遠藤新が設計した旧甲子園ホテル(昭和5年)という有形文化財を有していて、建築が好きな人が大勢見学に訪れる。一方、建築の正面には増田淳が設計した武庫大橋(昭和2年)があり、こちらは橋が好きな人が見学に訪れる。これらはほぼ同時期に造られており、甲子園ホテルは橋梁との関係性を考えながら建てられたはずである。ところが、建築の人は橋に気づかないし、土木の人は建築に気づかない。「土木」は建築と比べて、枠組みがおおらかであり、周囲をもっと巻き込んでいくことを期待したい。
- ・(島谷委員) デザイン賞選考メンバーが減ってきていて苦しい。例えば候補の橋梁を橋梁の専門家が視察に行けない実態がある。以前の委員にも専門的見地からの協力を得たい。また、土木のデザインをどう評価するのか、という議論がしたい。(土木コレクション 2008 の紹介)
- ・(関委員) 土木のデザインの仕事しており、楽しくてしかたない。しかし、明日の活力を見出せない土木の人が95%を占めているのが現状ではないか。デザインをしている人は、苦しい状況でも楽しいから乗り越えられる。デザイン部門が起爆剤となって土木の本丸を元気づけ、魅力を引き出していききたい。
- ・(江川委員) 橋梁ドクターとしてメンテナンスを担当している人は本当に忙しいようだ。しかし本当にすべての橋が必要なのか。ニュータウンの再生では「減築」というコンセプトもある。そうしたことも含めてトータルに考えたい。
- ・(吉川委員) 環境 建築 環境 土木と専門を移ってきた。旧来土木は、世の中がシュリンクしてくると自分の殻に閉じこもるように思う。そういった状況からどう脱却するのか。私自身は、「建てない」ことも解であるという教育を受けた。委員会での活動を大学教育に活かしたい。
- ・(屋代委員) 景観政策に関する提言を読んで、立場によって「いいもの」は変わってくるので、記載には配慮がいると感じた。例えば、橋の上の彫刻は、必ずしも「不要なもの」と言い切れないのではないかと。良くないという場合には、きちんとした論拠や適切な事例で示さないと、読者から反発を招く恐れがある。
- ・(小出委員) 景観法ができて、都市計画的な仕組み・プロセスは動いているが、「つくる」ことに対しては弱くなっていると感じる。デザインに対して専門家がもっと関わっていく形にしていく必要がある。
- ・(新屋幹事) 国交省から参加しているが、現在の景観担当者も委員として参加した方が望ましい。
- ・(神田委員) 土木工学は、本来、あらゆる学問分野を包含する特性を有するが、今は土木学会全体が他分野との連携をあまり行わず、自らの枠の中に籠もっているように思われる。

以上

2009 年度親委員会、親幹事会体制

委員長：田村 幸久（大日本コンサルタント）

幹事長：佐々木 葉（早稲田大学）

委員：天野 光一（日本大学）

：江川 直樹（関西大学）

：神田 昌幸（国土交通省）

：五道 仁実（国土交通省）

：桑子 敏雄（東京工業大学）

：小出 和郎（都市環境研究所）

：屋代 雅充（東海大学）

：溝口 宏樹（国土交通省）

：宮城 俊作（奈良女子大学）

：吉川 眞（大阪工業大学）

：平野 勝也（東北大学）

：関 文夫（大成建設）

委員兼幹事

発表会担当：丹羽 信弘（中央復建コンサルタント、編集小委員会副委員長（発表会））

論文集担当：中井 祐（東京大学、編集小委員会副委員長（論文集））

デザイン賞担当：二井 昭佳（国土館大学、デザイン賞選考委員会主査）

連絡担当：宮下 真紀子（八千代エンジニアリング）

会計担当：沖田 寛（建設技術研究所）

広報担当：福井 恒明（東京大学）

その他：新屋 千樹（国土交通省）

：北河 大次郎（文化庁）

平成21年度 第1回景観・デザイン委員会 親委員会議事

■日時・場所

日時：平成21年7月24日（金）16時～18時

場所：土木学会

出席予定者：田村委員長、齋藤幹事長、佐々木新幹事長、小出委員、五道委員、重山委員、神田委員、島谷委員、
屋代委員、江川委員、関委員、平野委員、吉川委員、丹羽幹事、福井幹事、沖田幹事、宮下幹事、
後藤幹事、新屋幹事

配布資料：委員会構成メンバー表、各小委員会活動報告（別添資料1）、景観政策提言（別添資料2）、
デザインワークショップ企画（別添資料3）、2008年度収支報告（別添4）、論文集再編（別添5）
運営方針（別添資料6）

■議事次第

- 1) 委員長挨拶
- 2) 新・旧委員、委員兼幹事紹介
- 3) 2008年度景観・デザイン委員会の活動概要（齋藤幹事長）
- 4) 各小委員会活動報告および質疑（各小委員会担当・別添資料1・2・3）
- 5) 2008年度収支関連（別添資料4）
- 6) 論文集再編関連（別添資料5）
- 7) 2009年度景観・デザイン委員会運営方針（佐々木新幹事長・別添資料6）
- 8) その他審議事項：デザイン賞10周年に向けて

■2009年度親委員会、親幹事会体制

委員長：田村 幸久（大日本コンサルタント）

幹事長：佐々木 葉（早稲田大学）

委員：天野 光一（日本大学）

：江川 直樹（関西大学）

：神田 昌幸（国土交通省）

：五道 仁実（国土交通省）

：桑子 敏雄（東京工業大学）

：小出 和郎（都市環境研究所）

：屋代 雅充（東海大学）

：宮城 俊作（奈良女子大学）

：吉川 眞（大阪工業大学）

：平野 勝也（東北大学）

：関 文夫（大成建設）

委員兼幹事

発表会担当：丹羽 信弘（中央復建コンサルタンツ、編集小委員会副委員長（発表会））

論文集担当：中井 祐（東京大学、編集小委員会副委員長（論文集））

デザイン賞担当：二井 昭佳（国土館大学、デザイン賞選考委員会主査）

連絡担当：宮下 真紀子（八千代エンジニアリング）

会計担当：沖田 寛（建設技術研究所）

広報担当：福井 恒明（東京大学）

その他：新屋 千樹（国土交通省）

：北河 大次郎（文化庁）

■2008 年度景観・デザイン委員会の活動概要

□委員会構成

- ・親委員会、親幹事会：全体方針および各小委員会の運営確認
- ・小委員会およびワーキンググループ
 - ：編集小委員会（発表会・論文集）
 - ：デザイン賞選考小委員会
 - ：提言小委員会
 - ：デザインワークショップ

□親委員会・親幹事会活動

- ・親委員会、親幹事会ともに、7月、12月に2回開催
- ・7月：昨年度活動報告および今年度活動方針
- ・12月：今年度活動中間報告および学会賞推薦作業

□小委員会など関連活動

- ・第4回景観・デザイン研究発表会の開催（編集小委員会）
- ・景観・デザイン研究論文集（No.5・6）の刊行（編集小委員会）
- ・土木学会デザイン賞2009の実施（デザイン賞選考小委員会）
- ・首長に向けた景観政策提言の実施（景観政策提言小委員会）
- ・土木学会全国大会研究討論会にて景観・デザインセッションの開催（親委員会）

□申し送り事項

- ・デザイン賞10周年に向けての企画立案

■各小委員会活動報告

□編集小委員会（別添資料1-1）

1) 第4回景観・デザイン研究発表会の開催

日時：2008年12月12日（金）～14日（日）

会場：熊本大学黒髪南キャンパス

企画内容：

- ・口頭発表：53篇（過去最多）、ポスター発表：13篇、景観デザイン演習作品展：11団体
- ・特別企画『風景をつくる現場』講演およびパネルディスカッション
- ・オープニング基調講演 など

参加者：292名（延べ）

参加費：一般6000円、学生2000円

協賛：26社からの広告収入（過去最多）

2) 景観・デザイン研究論文集（No.5・6）の刊行

発行回数：年2回（5号：2008年12月・6号：2009年6月）

部門：4部門（デザイン作品、計画・マネジメント、論説・評論、調査・研究）

投稿・登載数：5、6号合わせ34件の投稿数に対し、19件の登載（登載率56%）

3) 編集小委員会からの報告

- ・発表会は、口頭発表、広告数ともに過去最高であり、特に問題なし
- ・論文集は、例年通りの投稿数であり、とくに問題なし
- ・学会管理金が20%から25%にあがったため、若干の赤字

□デザイン賞選考小委員会（別添資料1-2）

1) 土木学会デザイン賞2008の実施

エントリー及び応募結果：

- ・エントリー数：28件（推薦制度：15件、一般応募：13件）
- ・応募数：24件（推薦制度：14件（うち先行応募1件）、一般応募：10件）
- ・審査対象数：25件（先行応募：2件、今年度応募23件）

審査結果：受賞数10件（最優秀賞2件、優秀賞5件、奨励賞2件、選考委員特別賞1件）

協賛報告：9団体より100万円の協賛金

授賞式：2009年4月25日（土）に学会講堂にて開催（100名程度の参加者）

2) デザイン賞選考小委員会からの報告

- ・応募数は昨年度に比べて6件減少（昨年度実績：31件）
- ・デザイン賞2007までは大幅な赤字であったが、デザイン賞2008では若干の黒字見込み
- ・デザイン賞2008より、優秀賞には届かないものの一定のレベルに達しているものに対する賞として、奨励賞を設定

□景観政策提言小委員会（別添資料2）

委員構成：

委員長：篠原修（政策大）

委員：桑子敏雄（東工大）、小出和郎（都市環境研究所）、小林一郎（熊大）、斎藤潮（東工大）

佐々木政雄（アトリエ74）、島谷幸宏（九大）、中井祐（東大）、平野勝也（東北大）

福井恒明（東大）、二井昭佳（国土大）、オブザーバー：田村幸久（大日本コンサルタント）

提言の趣旨：

地方自治体が推進すべき景観政策として考えられる3つの側面、①阻害要因の排除「なくす」、②良好な景観の保護「まもる」、③新しい風景の創出「つくる」のうち、景観法だけでは達成することができない③新しい風景の創出を

行するための具体的な提言をおこなう。

提言先：景観行政団体になっている全国の市町村および都道府県の首長393名

提言の構成：

全国の市町村および都道府県の首長に対する提言であるため、できるだけビジュアルでわかりやすく、かつ地域力を高めるために景観づくりが有効な方法であることを理解できる資料とした。

提言実施：

2009年4月30日に、393の景観行政団体（都道府県および市町村）の首長に向けて提言を送付。

都市計画学会、造園学会からの賛同文書つき。

国土交通省、農水省、環境省へも資料を送付。

景観・デザイン委員会HPに提言に関するページをUP済み。

今後について：

今後の活動方針については景観・デザインを取り巻く課題並びに社会的状況を踏まえて検討中。国の機関に向けた提言実施の可能性について、活動方針のひとつとして検討中。

□デザインワークショップ（別添資料3）

- ・2009年7～12月の期間に高知工科大学にて、河川的设计演習を実施し、その内容のほぼ全てを随時WWWで公開
- ・講師は、西山（西日本科学技術研究所）、重山を基本とし、そのほかにもお願いする予定
- ・オンラインでの受講も可能となるように準備中
- ・現在、HPを作成して公開しており、今後、講義が進むに従って内容を拡充していく予定
- ・教育の内容や成果だけでなく、そこに至るまでの経過もなるべく掲載予定
- ・教育の概要は広く公開するが、深部は登録者のみに公開（パスワードで保護）
- ・登録者をもってWorkshopの参加者数にカウントする（目標は50人）
- ・WWWの閲覧者からのコメントを受け付ける仕組みを準備する予定
- ・設計演習の成果品は、12月の研究発表会での展示を検討する
- ・最後に反省会を開き、できたこと、できなかったこと、今後の方針、などを検討して終了とする
- ・Webサイトの全てをDVDに記録して保存する

□2008年度土木学会全国大会研究討論会（別添資料：無）

テーマ「東北地方整備局における美しい国土づくりへの取組みについて」（2008年9月10日（水）東北大学）
企画概要

座長：篠原修氏（政策研究大学院大学）

話題提供者：阿部幸雄氏（国土交通省東北地方整備局）、伊藤友良氏（国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所長）、畑山義人氏（株式会社ドーコン）、平野勝也氏（東北大学）

焦点：美しい国づくりアドバイザー制度、担当官制度、景観プロポーザルの経緯と概要

：同制度を適用した具体的な設計事例の紹介と設計段階および完成後における通常事業との相違点

：発注者・受注者それぞれからみた制度運用における利点や苦勞する点、担当者の意識変化

参加状況

景観セッションとは異なる日にちにもかかわらず、東北地方整備局や実務者、学生など60名程度の参加を得て、盛況に開催した。

□2009年度土木学会全国大会研究討論会予定（別添資料：無）

テーマ「風景立国九州に向けた土木デザインの仕組みづくり」（福岡大学）

企画概要

座長：小林一郎氏（熊本大学）

話題提供者：川口芳人氏（国土交通省九州地方整備局）、竹下真治氏（国土交通省九州地方整備局川内川河川事務所）、矢ヶ部輝明氏（（株）建設技術研究所九州支社）、星野裕司氏（熊本大学）

焦点：景観形成管理システム、景観カルテの経緯と概要

：同制度を適用した事例の紹介と課題 など

■2008年度親委員会収支関連（別添資料4）

■土木学会論文集再編ともなう「景観・デザイン研究論文集」の扱いについて（別添資料5）

■2009年度運営方針（別添資料6）

■その他審議事項

□土木学会デザイン賞10周年に向けて

- ・2010年度（2011年3月）で10年目を迎えることになるため、区切りとしてなんらかの企画を実施したい。

- 10年終了時には、受賞作品が100件程度（最優秀：30件、優秀70件）となることを見込まれる。
- 歴代の小委員長および主査により検討をおこなうことを考えている。

土木学会 景観・デザイン委員会 2009 年度運営方針

1. 昨年度を振り返って

昨年度までの成果

- ・研究発表会と論文集の基礎固めと元気な運営
- ・デザイン賞の継続・授賞式の活性化・経営改善
- ・景観行政団体への提言

昨年度の課題

- ・親委員会の活動とはなにか

2. 今年度の目標

Level 1：委員会構成員であることの自覚に基づく活動

研究発表会・論文集

- ・継続的に元気な運営をするためのサポート（親委員会として）
 - * 委員は発表・投稿しましょう。
 - * 委員は関連する様々な人に発表＆参加を呼びかけましょう。

デザイン賞

- ・継続的な活動のためのサポート（親委員会として）
 - * 委員は賞への応募を呼びかけましょう。推薦しましょう。
 - * 委員は受賞式に参加しましょう。（さまざまな人を連れて）
 - * デザイン賞 10 周年に向けて何をするかについて意見を出しましょう。

Level 2：新たな活動の立ち上げ

大きな目標：景観やデザインの仕事をやる若い人たち（主に 30 代）が元気になれること！

- ・景観・デザインの仕事の価値の確立
- ・職能としての景観・デザイン士（仮）の確立
- ・地域密着のプロジェクトチーム型の仕事の仕方の確立
- ・直接市民に語りかける場と語り方の確立

そのために必要な活動

現状把握： 景観の仕事の実態調査（人：部署・担当・採用 / 仕事：受注額他）

大学における景観系学位取得者・助手・助教など

景観・デザイン士（仮）のイメージとネットワークの議論

景観評論： 景観やデザインの良し悪し、問題となる事例の批評を、「新聞記事」レベルで活発に発信・議論できるための準備。建築学会との連携（景観といえば高さと色というレベルを超えたい。by 後藤春彦先生）

デザイン賞 10 周年記念 WG の活動：上記の大きな目標に資する活動として欲しい。きれいな作品集の編集に終わらないように。（作品の著作権・ドキュメントの重要性とその著作権）

土木学会内外との連携（例：交通まちづくり G と「移動風景」について議論、歴史的土木建造物のリ・デザイン、DWS で河川と連携？・・・）